



中山 心さん
(緑区・7歳)



熊谷 久利実さん
(盛岡市・11歳)



外館 ゆきかさん
(中央区・9歳)



下坪 夏南さん
(黒崎・9歳)



畠山 彩愛さん
(盛岡市・11歳)

- ◆ 応募総数：十八通で十六人の方が正解でした。次の七人に図書券を送ります。
- ◆ 当選者：①小林郁奈さん(栃木県・8歳) ②畠山雄奨くん(盛岡市・9歳) ③熊谷久美恵さん(同・4歳) ④畠山彩愛さん(同・11歳) ⑤外館ゆきかさん(中央区・9歳) ⑥源田晴菜さん(同・9歳) ⑦松家実咲さん(堀内・4歳)

このお話しに出てくる、アンネフランクは、オランダのアムステルダム生まれで十三さいです。その、アンネフランクはふつうの女の子と変わらない生活をしていました。しかし、とても大変な生活を送ることになります。

それは、アンネフランクがユダヤ人だという理由からです。アンネの家族はユダヤ人だったのです。

ある日、ユダヤ人はつかまえてドイツの工場にむりやり働かせるということになりました。ぼくは、同じ人間で同じドイツ人なのにユダヤ人だけがつかまって働かせられるのはとてもおかしいと思いました。第一次世界大戦にまでくわわって命をかけてドイツのために戦ったのになぜユダヤ人だけがつかまるのか不思議

議でした。

そこで、アンネたちはつかまらないように、あるビルの三かいと屋ねうらべやにかくれ住むことになりました。でもその生活はとても苦しいものでした。朝や昼には下の人たちに気づかれぬようにも音をとてないようにして生

活しなければならぬし、また一歩も外に出ることができず外の空気もすうことができないからです。

ぼくだったらそんな生活にはたえきれないと思います。ぼくはそんな体験をしたことはありません。でもよくアンネはそんな生活にたえきれた

なあと思いました。

アンネのすごいところは、ヒトラーの手によって苦しめられているのに人をにくまないうことだと思えます。そして、何事にもめげない強い心をも

「アンネフランク物語」を読んで

★ 小学校中学年の部
黒崎小学校四年 片座 佳祐くん

★ 小学校中学年の部

つているところだと思えます。ぼくだったら自分の自由をうばったりする人がいたらその人をにくく思うかもしれませぬ。アンネはだれにもくまず明るく生活していてとてもすごいなあと思えました。ぼくはそんなアンネは、ドイツの代表であるヒトラーよりえらいと思えました。

ヒトラーは自分の考えを聞き入れない者をころしてきたりしたけど、アンネは人をにくまずに、また苦しい生活にたえてみんなを元気づけようとしたりしました。だからアンネの方がりっぱだなあと思えました。

何年かして、とうとうアンネたちがひそんでいたかくれがが見つかってしまいました。そしてアンネたちは強せいしゅうよう所につれて行か

れました。そこでの生活はとてもきびしいものでした。アンネが一年の間、ひどい生活にたえられたのは、家族がいてくれたからと自分がジャーナリストになるんだという夢をおいかける気もちがあつたからだと思えます。一日をなんとなくすごしていれば一年の間たえきれたのかなと心配になります。

アンネはチフスという病気で死んでしまいました。アンネはたくさんのことをぼくたちにのこしてくれたと思えます。アンネはいつも明るくそして強く生きてきました。ぼくも、広い心と強い気持ちをもって生きていきたいです。

Ⅱ 原文のままⅡ (※佳祐くんは現在五年に進級しています)

